

⑫ 公開実用新案公報(U) 平1-61163

⑮ Int. Cl.⁴
A 47 C 27/00

識別記号 庁内整理番号
D-7309-3B

⑯ 公開 平成1年(1989)4月18日

審査請求 有 (全7頁)

⑰ 考案の名称 マットレス

⑱ 実 願 昭62-156728

⑲ 出 願 昭62(1987)10月15日

⑳ 考 案 者 中 川 和 彦 千葉県松戸市上矢切275番地

㉑ 考 案 者 中 川 徳 正 北海道函館市堀川町1番6号

㉒ 出 願 人 中 川 和 彦 千葉県松戸市上矢切275番地

㉓ 代 理 人 弁理士 南 一 清 外1名

㉔ 実用新案登録請求の範囲

枕下部、胴体部、足部からなるマットレスにおいて枕下部と胴体部間に溝部を形成すると共に、胴体部の上方中央附近に溝部内方に突出する突出部を設けたことを特徴とするマットレス。

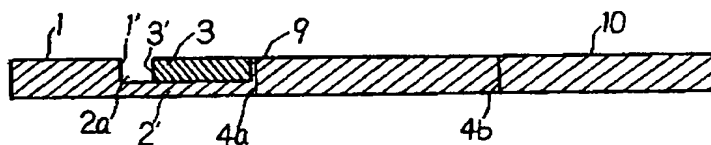
図面の簡単な説明

第1図は本考案の1実施例の斜視図、第2図は第1図のA-A'線縦断面図、第3a図、第3b図、第3c図、第3d図は本考案の他の実施例の一部平面図、第4図はウォーターマット及びエアーマットの縦方向の一部縦断面図、第5図は本考案のマットレスに仰むけで就寝中の状態を示した巾方向のX-X'線縦断面図、第6図は横姿勢で就寝中の状態を示した正面図、第7図は、マットレス本体の枕下部が分離できるマットレスの斜視図、第8図は第7図のB-B'線縦断面図、第9

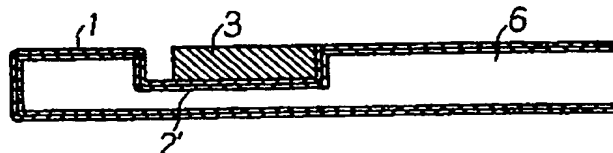
図はマットレス本体の枕下部を連結材で溝部裏面において連結した状態を示した斜視図、第10図は第9図のC-C'線縦断面図、第11図は枕下部1と胴体部9をマットレスと同幅の連結材で連結し、溝部に調整具を使用した状態を示した斜視図、第12図は連結材を箱形に形成し、枕部と胴体部を連結した状態を示した縦方向のC-C'線一部縦断面図、第13図及び第14図は従来のマットレスを使用し、就寝中の身体の状態を示した図である。

1……枕下部、2……左溝部、2'……右溝部、3……突出部、4a、4b……折畳用切断部、5、5'……枠、6……中空部、7……敷布団、8……上腕部、9……胴体部、10……足部、12……連結材、13……調整具、13'……枕、14……肩部。

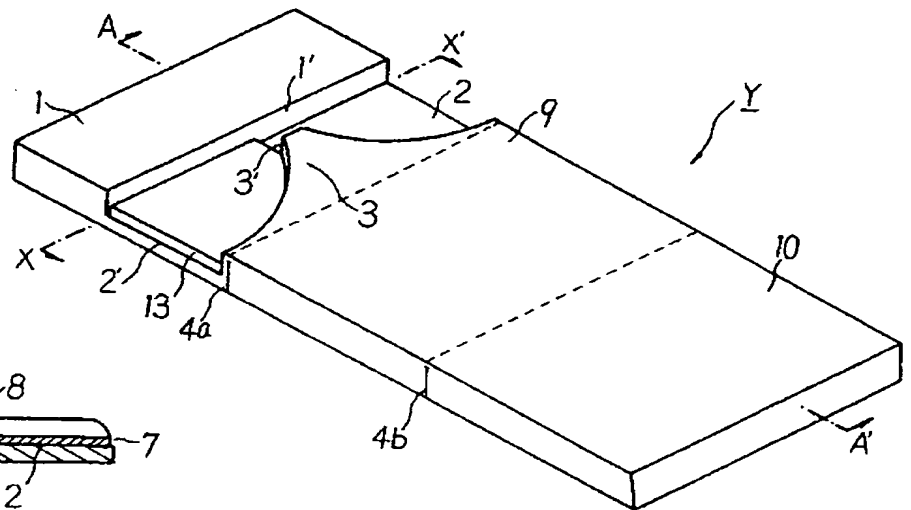
第2図



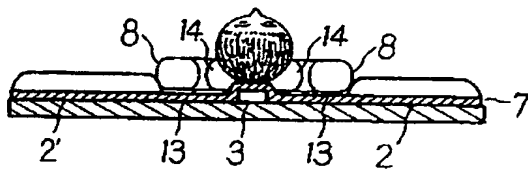
第4図



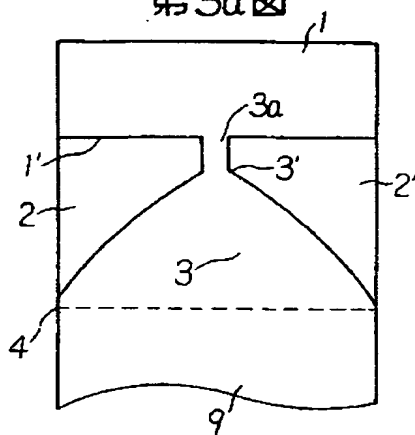
第1図



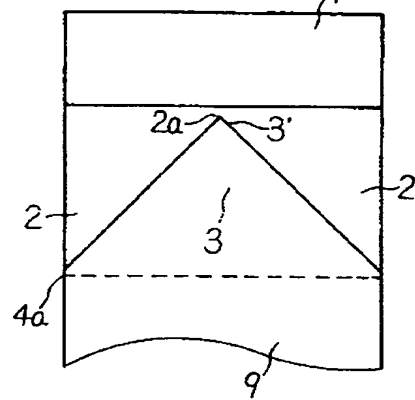
第5図



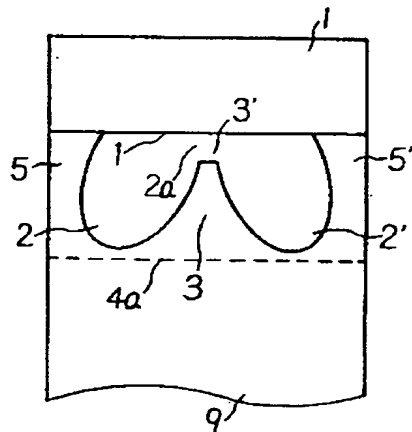
第3a図



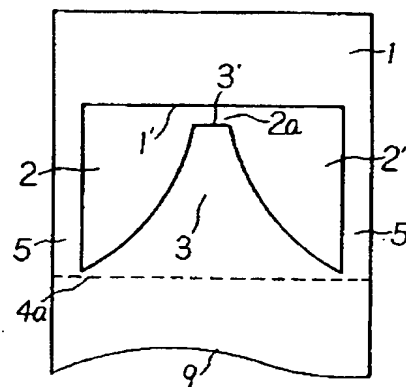
第3b図



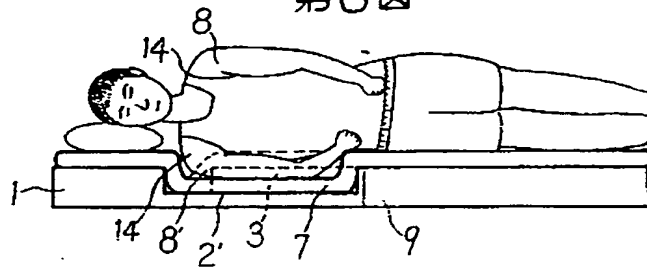
第3c図



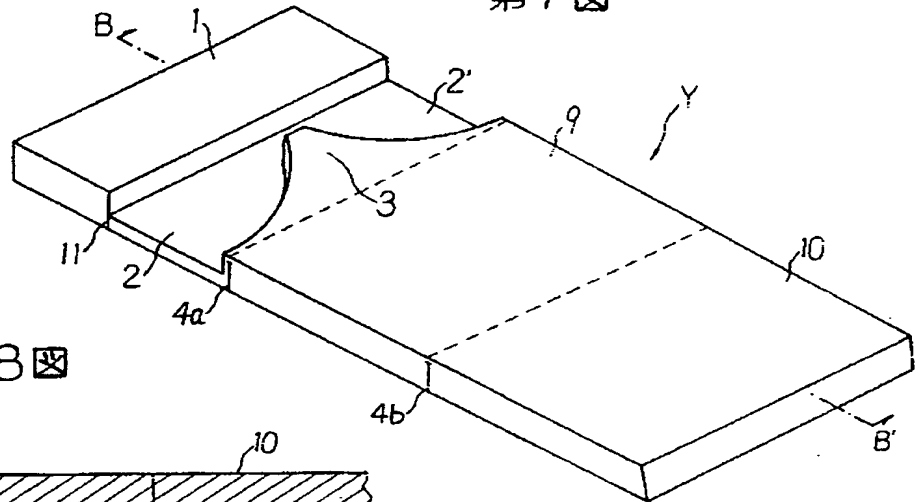
第3d図



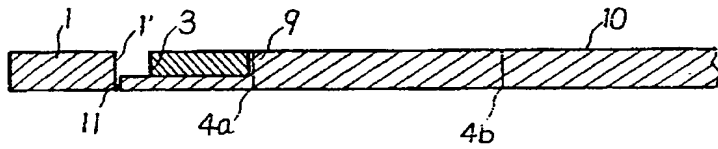
第6図



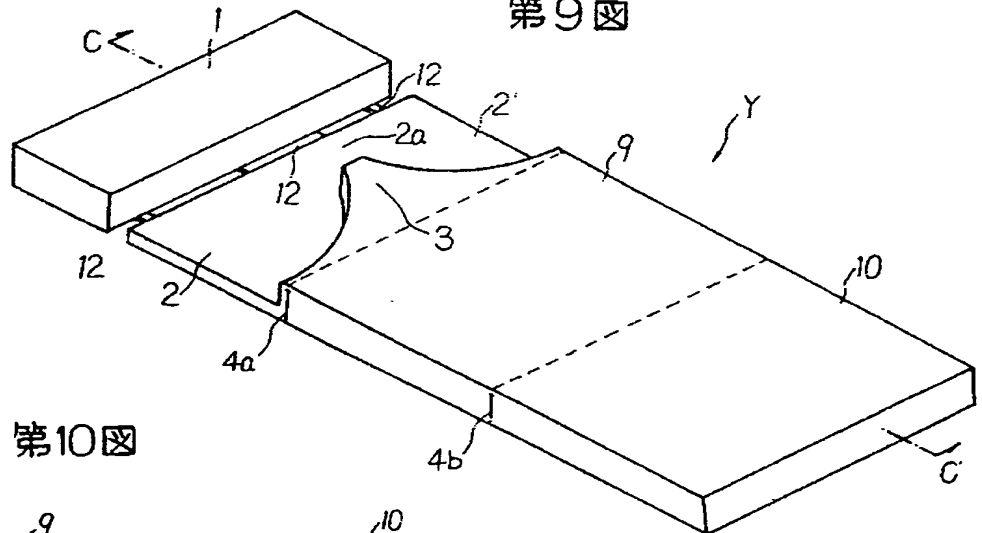
第7図



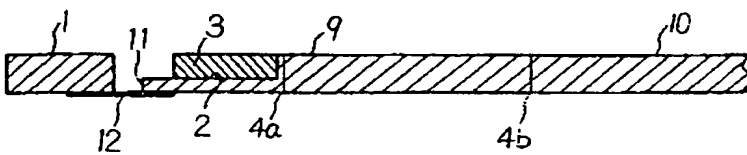
第8図



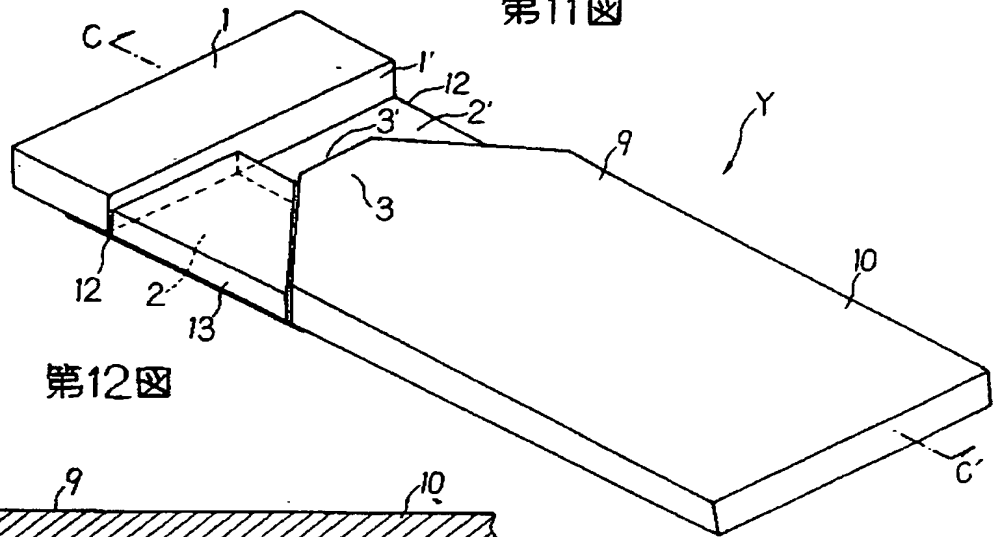
第9図



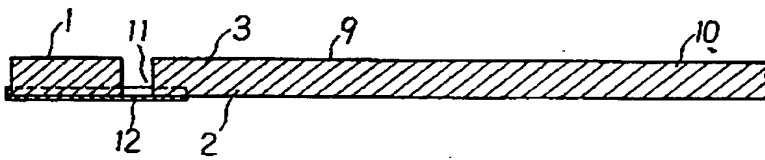
第10図



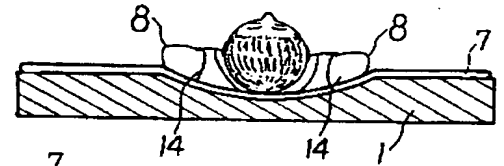
第11図



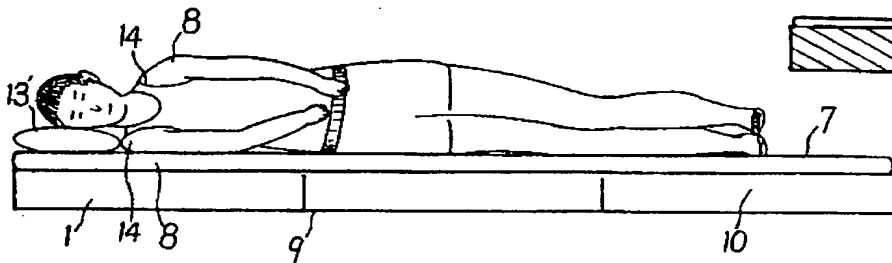
第12図



第13図



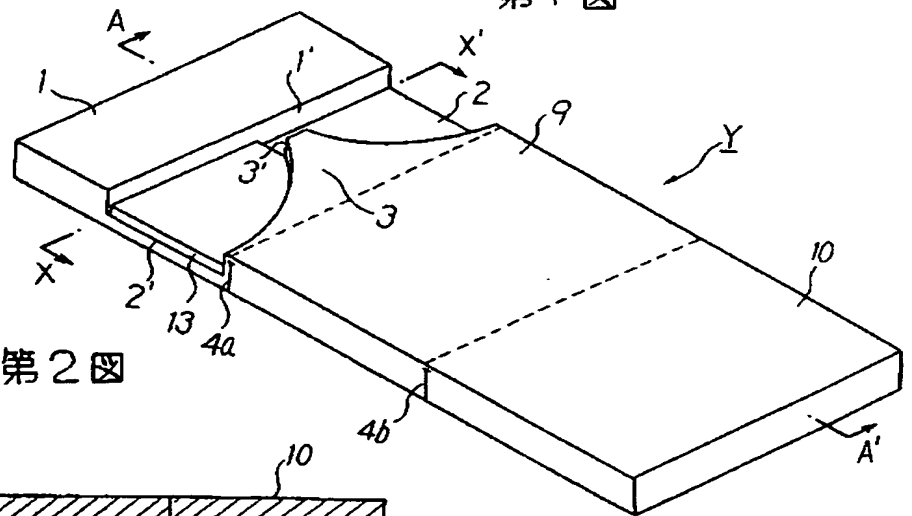
第14図



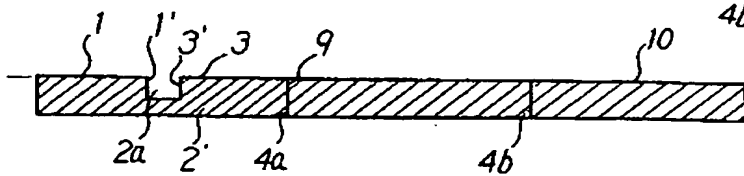
補正 昭63. 1.27

図面を次のように補正する。

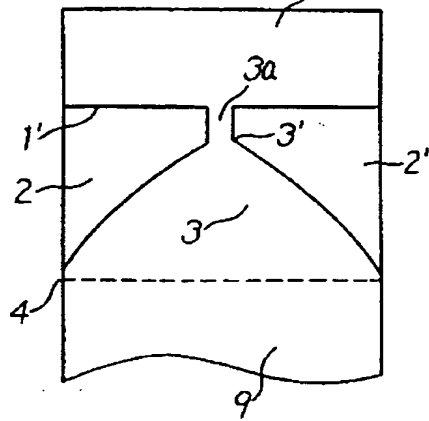
第1図



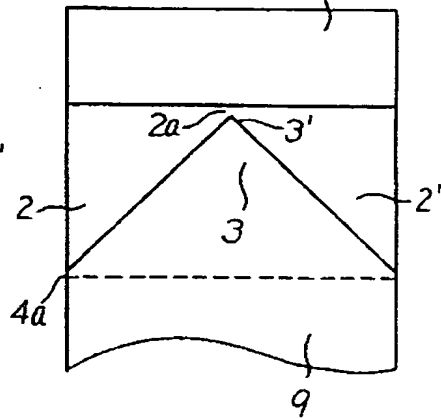
第2図



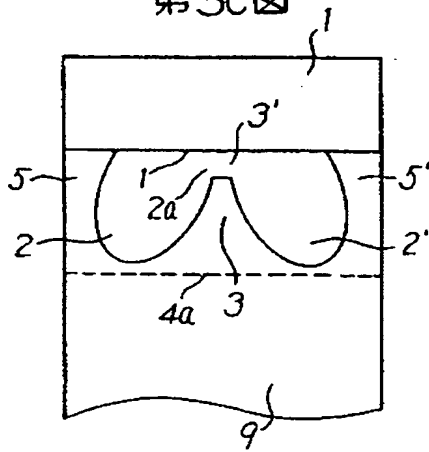
第3a図



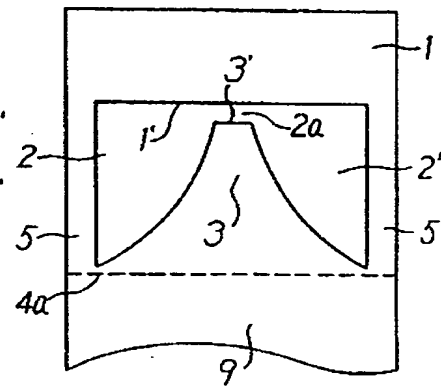
第3b図



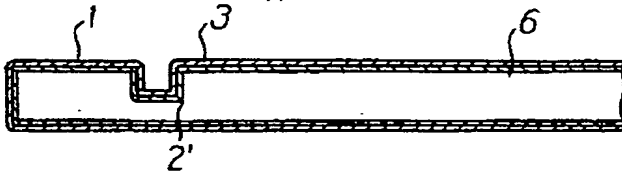
第3c図



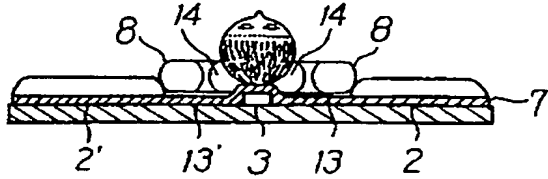
第3d図



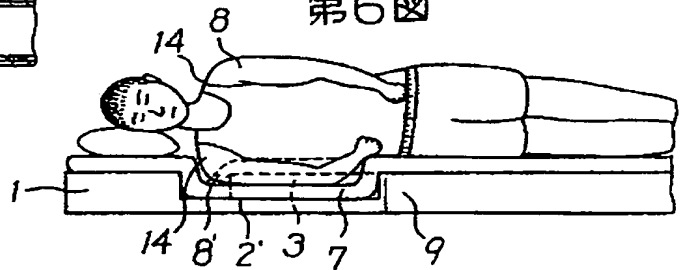
第4図



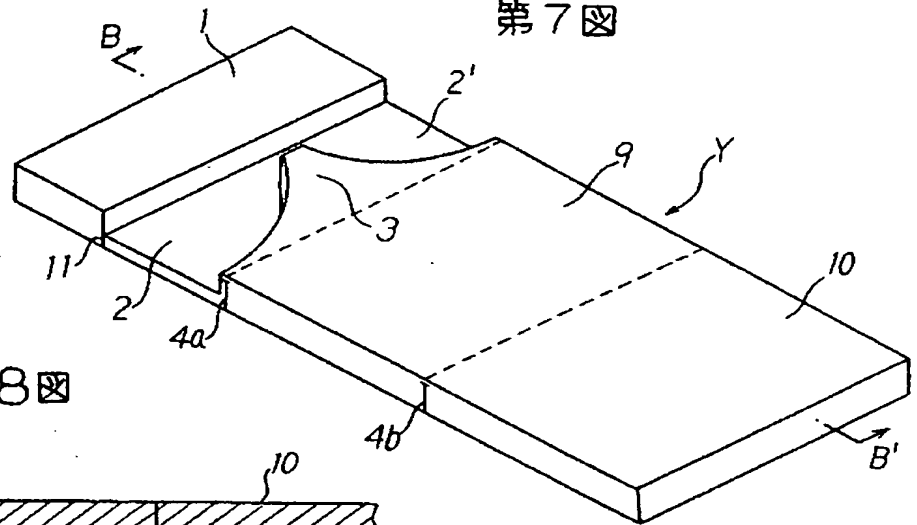
第5図



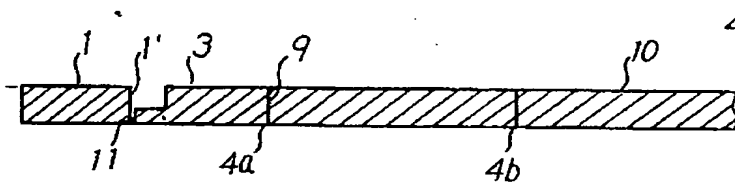
第6図



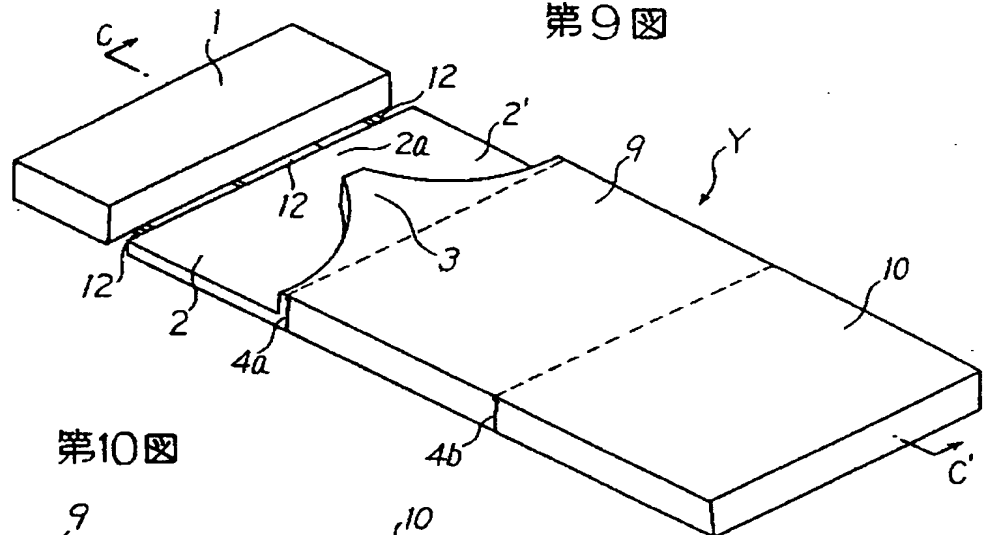
第7図



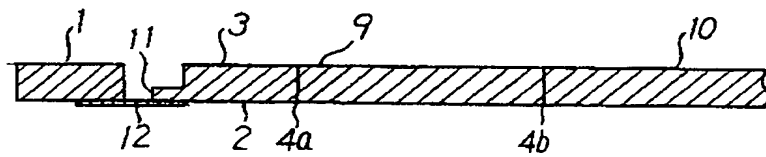
第8図



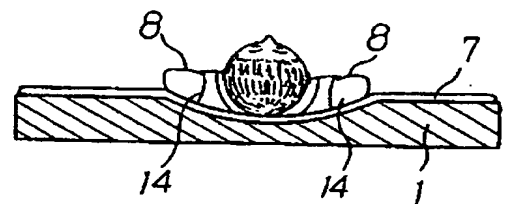
第9図



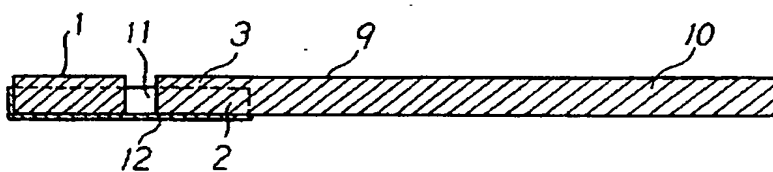
第10図

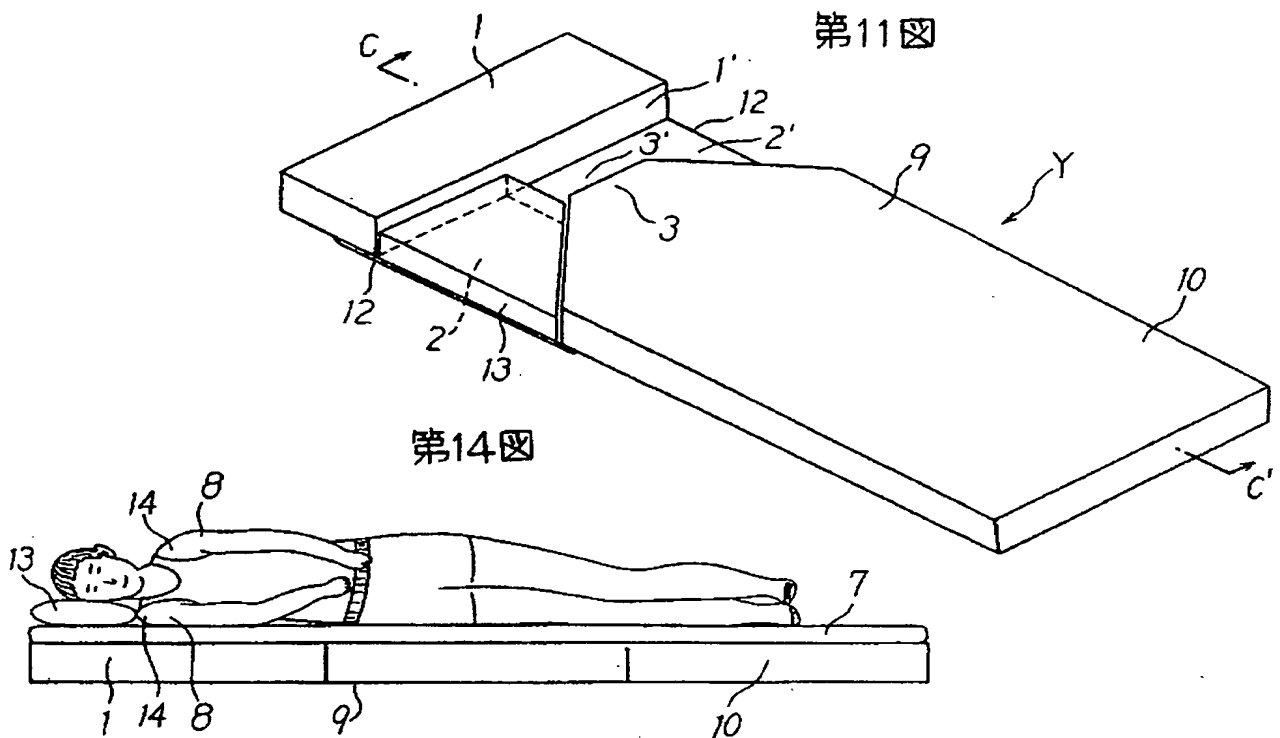


第13図



第12図





補正 昭63. 8. 5

考案の名称を次のように補正する。

④考案の名称 マットレス

実用新案登録請求の範囲、図面の簡単な説明を次のように補正する。

⑦実用新案登録請求の範囲

枕下部、胴体部、足部からなるマットレスにおいて枕下部と胴体部間に溝部を形成すると共に、胴体部の上方中央附近に溝部内に突出する突出部を設けたことを特徴とするマットレス。

図面の簡単な説明

第1図は本考案の1実施例の斜視図、第2図は第1図のA-A'線縦断面図、第3a図、第3b図、第3c図、第3d図は本考案の他の実施例の一部平面図、第4図はウォーターマット及びエアーマットの縦方向の一部縦断面図、第5図は本考案のマットレスに仰むけで就寝中の状態を示した巾方向のX-X'線縦断面図、第6図は横姿勢で就寝中の状態を示した正面図、第7図は、マット

レス本体の枕下部が分離できるマットレスの斜視図、第8図は第7図のB-B'線縦断面図、第9図はマットレス本体の枕下部を連結材で溝部裏面部において連結した状態を示した斜視図、第10図は第9図のC-C'線縦断面図、第11図は枕下部1と胴体部9をマットレスと同幅の連結材で連結し、溝部に調整具を使用した状態を示した斜視図、第12図は連結材を箱形に形成し、枕部と胴体部を連結した状態を示した縦方向のC-C'線一部縦断面図、第13図及び第14図は従来のマットレスを使用し、就寝中の身体の状態を示した図である。

1……枕下部、2……左溝部、2'……右溝部、3……突出部、4a, 4b……折畳用切断部、5, 5'……枠、6……中空部、7……敷布団、8……上腕部、9……胴体部、10……足部、12……連結材、13……調整具、13'……枕、14……肩部。

公開実用平成 1— 61163

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平1-61163

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)4月18日

A 47 C 27/00

D-7309-3B

審査請求 有 (全 頁)

⑭ 考案の名称 マットレス

⑮ 実 願 昭62-156728

⑯ 出 願 昭62(1987)10月15日

⑰ 考 案 者	中 川	和 彦	千葉県松戸市上矢切275番地
⑱ 考 案 者	中 川	徳 正	北海道函館市廻川町1番6号
⑲ 出 願 人	中 川	和 彦	千葉県松戸市上矢切275番地
⑳ 代 理 人	弁理士 南	一 清	外1名

明 細 書

1. 考案の名称 マットレス

2. 実用新案登録請求の範囲

枕下部、胴体部、足部からなるマットレスにおいて枕下部と胴体部間に溝部を形成すると共に、胴体部の上方中央附近に溝部内方に突出する突出部を設けたことを特徴とするマットレス。

3. 考案の詳細な説明

「考案の目的」

産業上の利用分野

本考案は、ベッド上又は敷布団の下に敷くマットレスの改良に関するものである。

従来技術

従来マットレスを使用して、就寝中に第14図に示すように身体が横姿勢になつた時には、まず、上腕部(8)、(8)上部が敷寝具(例えば、敷布団)に接触し、身体の胴体部の重みにより肩部14、14が直接影響を受け変型状態になるために肩部14、14及び上腕部(8)、(8)がマットレスの弾発力により上



方に押され、横姿勢で長時間就寝していると肩部(14, 14)及び上腕部(8), (8)に痛みを感じ目が醒めたり寝返りをうつたりして熟睡できず疲労が完全に除去できない欠点があつた。

又第13図に示すように、上図で就寝している場合にも頭部、肩部及び上腕部等が体の重みでマットレスの中に沈みこむと共に両肩部(14, 14)及び両上腕部(8), (8)がマットレスの弾発力により上方胸部側に常時押されるので背が弓状に彎曲し、朝、目が醒めても肩部(14, 14)のこりがとれず不快感が残る等の欠点があつた。また、人間は人生の三分の一と言われる睡眠時間中の就寝時の姿勢によつて従来のマットレスを使用した場合には、肩を痛め、肩に関連する首筋部にも悪影響を与えていた。

このためにマットレスを柔らかくしたり、堅くしたりあるいは枕を高くしたり低くしたり、更に敷布団を2枚にしたり合成ウレタンマットレス、スプリングマットレス、ウォーターマットレスやエアーマットレス等クッション性のすぐれたものを使用する手段がとられていたが、出張つている



上腕部(8)，(8)肩部(14)，(14)が胴体部の下敷きになり
体重がかかるという人体構造の欠陥を是正できず、
疲労を完全に除去することや肩こりを解消するこ
とは不可能であつた。

考案が解決しようとする問題点

本考案は、睡眠中に横姿勢になつた場合、又は
上向で就寝する場合のいずれでも、身体の肩部と
上腕部とが当たるマットレスの一部分に溝部を有
する構造とすることにより、身体の両肩部(14)，(14)
及び両上腕部(8)，(8)が胴体部の重圧やマットレス
の弾発力により圧迫感や痛みを感じることがない
と共に両肩部(14)，(14)及び両上腕部(8)，(8)の下に空
間を形成することができるため、背が弓状に彎曲
することなく水平状態を保つて就寝することを可
能とすることにより熟睡でき、肩こりを解消し疲
労感が残らないマットレスを提供することを目的
とする。

「考案の構成」

問題点を解決するための手段

本考案は前述の目的を達成するために枕下部、

胴体部、足部からなるマットレスにおいて、枕下部と胴体部間に溝部を設けると共に胴体部の上方中央附近に溝部内に突出する突出部を形成したことを特徴とするマットレスなる構成を有するものである。

「作用及び実施例」

前記構成を図面に示す実施例について説明すれば次の通りである。

図面に示す実施例は、溝部を有するマットレスの実施例を示すものであつて、(2)は左溝部、(2')は右溝部であり、これらの溝部は第1図に示す如くマットレス本体(Y)の枕下部(1)と胴体部(9)との間に設けると共に胴体部(9)の上方に枕下部の内方起立面(1')方向に向けて溝部内に突出する突出部(3)を形成する。突出部(3)の形状及び溝部(2), (2')は第1図に示した形状に限定されるものではなく第3a図～第3d図に示した形状に形成してもよい。そして突出部(3)の先端部(3')と枕部内方起立面(1')にも左右溝部(2), (2')を連通する溝部(2a)を有し、突出部の先端部(3')と枕部内方起立面は略平行に形成す

図 2

ると共に突出部の厚さはマットレス本体(y)の厚さと同じ厚さとする。図中(4a)・(4b)はマットレス本体を折り畳む為の折り畳み用切断部であり、10はマットレス本体の足部である。実施例の図面に於ては、折り畳み用切断部(4a)・(4b)を有するマットレスを示したが、必ずしも折り畳み用マットレスでなくてもよい。第3a図～第3d図は前述の如く本考案の他の実施例を示したものであり、第3a図の実施例は、突出部(3)の先端部(3')を枕下部内方起立面(1')の略中央部に連設部(3a)を設け、枕下部(1)に連設すると共に左右溝部(2)・(2')を形成したものであり、第3b図の実施例は突出部(3)を略三角形状に形成すると共に尖鋭の突出部先端部(3')と枕下部起立面の間には左右溝部(2)・(2')を連通する溝部(2a)を設けたものであり、第3c図及び第3d図は左右両溝部(2)・(2')の外側に枠部(5)・(5')を設けた実施例であり、第3c図は左右溝部(2)・(2')を卵形にすると共に突出部の先端部(3')と枕下部内方起立面(1')の間に左右両溝部(2)・(2')を連通させる溝部(2a)を形成したものであり、第3d図は



突出部(3)を富士山形状にすると共に突出部先端部(3')と枕下部内方起立面(1')との間に左右両溝部(2), (2')を連通させる溝部(2a)を形成したものである。図中(13)は、本考案におけるマットレスに使用する調整具である。即ち、本マットレスを使用する者の体形に適合させる為に溝部(2), (2')の深さを調節する調整具である。この調整具(13)の形状は、溝部の形状に応じて溝部内に収納可能に形成すると共に、使用時には必要に応じて上記調整具(13)を数枚重ね合せて使用してもよく、又左右溝部(2), (2')のいずれに使用してもよい。

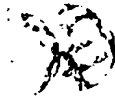
本考案は、マットレスばかりでなく第4図に示す如く水又は空気を中空部(6)に入れて使用されるウォーターマット及びエアーマットにも応用することが可能である。この場合にも左右両溝部(2), (2')の形状及び突出部(3)の形状は、第3a図～第3d図に示した形状に形成してもよい。第7図及び第8図は、マットレス本体(Y)の枕下部(1)を左右溝部(2), (2')の先端部(11)から分離したマットレスを示したものであり、このように枕部(1)を分離するこ



とにより就寝の際に自己の身長・体形に適合した位置に枕下部(1)を移動することが可能な構成としたものである。

そして、第9図及び第10図はマットレス本体(Y)の枕下部(1)を第7図及び第8図に示した様に左右溝部(2)、(2)'先端部(1)から分離すると共に就寝中に寝返り等の動きにより枕下部(1)が移動してしまうことにより寝心地が悪くなることを防止する為に連結材(2)で連結した場合であり、この連結手段は、第10図に示す様に枕下部(1)の裏面とマットレスの左右溝部(2)、(2)'の裏面とを連結材(2)を介してマットレス使用者の身長・体形等を考慮して必要な間隔をとり取付固定する。取付は接着剤を使用して取付てもよいし、ベルベットフアスナーを使用して取付てもよく又、縫着して取付てもよい。

図中の左右溝部(2)、(2)'の深さは、同じ深さに形成してもよいが、本考案のマットレスを使用する人の身長・体形等に適応させる為に左右溝部(2)、(2)'の一方を深く形成し、他方の溝部を浅く形成してもよい。第11図は、マットレス本体(Y)から枕下



部(1)を分離させ、連結材(12)でマットレス本体(Y)の胴体部(9)の裏面と枕下部(1)の裏面を連結した状態を示したものである。この場合に於ては、突出部(3)の先端部(3)の幅はマットレスを使用する者の体形に応じて幅を広くしてもよく狭く形成してもよい。

枕下部(1)と胴体部(9)の間に形成された左右溝部(2)、(2')には必要に応じて別体に形成された調整具(13)を使用することにより溝部(2)、(2')の深さを調整することが可能である。連結材(12)は、第11図に示したマットレス本体の幅と同幅の板状の連結材(12)を枕下部(1)の裏面と胴体部(9)の裏面に取付ける方法に限定されるものではなく、第12図に示した様に枕下部(1)を収納できる箱形の連結材(12)とし、突出部(3)及び胴体部の一部を上記箱形の連結材(12)に収納固定してもよい。連結材としては、バルベツトフアスナー、木製、金属製及び合成樹脂製の板材を使用してもよい。

第11図に於て連結材を使用して連結したマットレスを示しているが、連結材及び調整具を使用せ



ずにしてもよい。

本考案のマットレス本体(5)に敷布団(7)を使用して就寝状態を示した図が第5図及び第6図であり、第5図は上向姿勢で就寝している状態を示したものであるが、左右肩部(14, 14)及び左右上腕部(8, 8)がそれぞれ左右両溝部(2, 2)に入りこむ為に左右上腕部(8, 8)及び左右肩部(14, 14)の下に空間(3)ができるため水平状態となる。横姿勢により就寝中の状態を示した図が第6図であり、就寝中に横姿勢になつても肩部(14, 14)及び上腕部(8, 8)がマットレスの溝部(2)におさまる為に敷布団(7)に接することがなく横姿勢で就寝しても肩部(14, 14)及び上腕部(8, 8)が体重及びマットレスの弾発力による痛みを感じることがなくなる。この場合、身体を支える箇所が、頭部と脇の下、胴体部の2箇所になるため上腕部(8, 8)肩部(14, 14)を敷布団に接触させて、4箇所の接点に体重の分散をさせることもできる。調整具を使用することにより使用する者の体形に適合したマットレスとすることが可能となる。



マットレスの突出部(3)の先端部(3')の幅は使用する者の体形に応じて幅広にしてもよく、又左溝部(2)を大きく形成し、右溝部(2')は左溝部(2)よりも小さくしてもよい。勿論右溝部(2')を左溝部(2)より大きく形成してもよい。

実施例中では、折畳み可能なマットレスを示しているが、マットレスは折畳用切断部のないマットレスでもよい。

「考案の効果」

本考案はマットレスの枕部と胴体部間に突出部を有する左右溝部を形成したので、仰むけで就寝しても頭部、肩部及び上腕部の重みでマットレスの中に沈み込むことにより上腕部・肩部が弓状に彎曲することがなくなる為に熟睡することができ、肩こりを解消できるとの効果がある。

また、横姿勢で就寝しても肩部・上腕部がマットレスの弾発力及び体重により押圧されることがなくなる為に肩部及び上腕部に痛みを感じることがなくなり、就寝中に目醒めることがなく熟睡でき短時間の睡眠で疲労を除去できるとの効果があ

る。

更に、枕部を左右溝部から分離したのでマットレスを使用する者の体形に適合させて使用できるとの効果もある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の1実施例の斜視図、第2図は第1図のA-A'線縦断面図、第3a図、第3b図、第3c図、第3d図は本考案の他の実施例の一部平面図、第4図はウォーターマット及びエアーマットの縦方向の一部縦断面図、第5図は本考案のマットレスに仰むけで就寝中の状態を示した巾方X-X'線縦断面図、第6図は横姿勢で就寝中の状態を示した正面図、第7図は、マットレス本体の枕下部が分離できるマットレスの斜視図、第8図は第7図のB-B'線縦断面図、第9図はマットレス本体の枕下部を連結材で溝部裏面部において連結した状態を示した斜視図、第10図は第9図のC-C'線縦断面図、第11図は枕下部(1)と胴体部(9)をマットレスと同幅の連結材で連結し、溝部に調整具を使用した状態を示した斜視図、第12図は連結

材を箱形に形成し、枕部と胴体部を連結した状態
を示した縦方向の^{C-C線}一部縦断面図、第13図及び第14
図は従来のマットレスを使用し、就寝中の身体の
状態を示した図である。

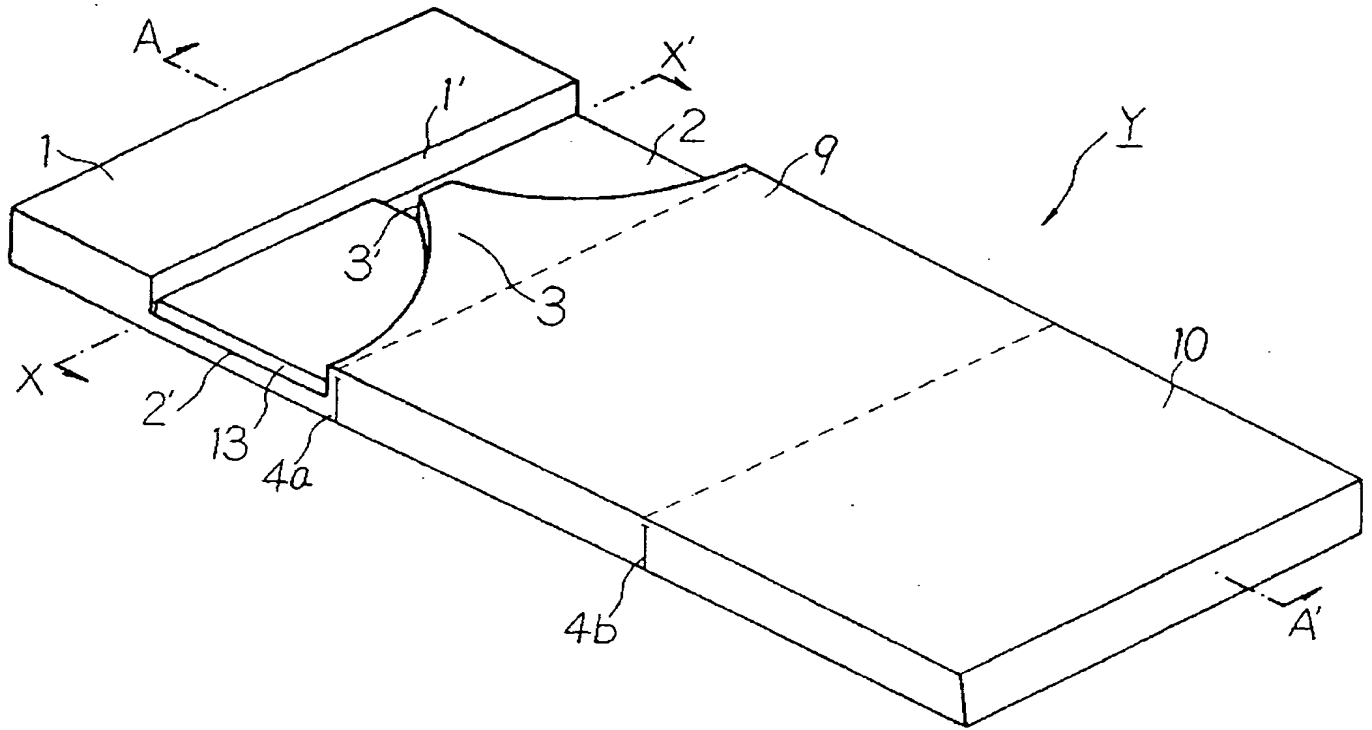
(1)…枕下部、(2)…左溝部、(2')…右溝部、(3)…突
出部、(4a)、(4b)…折畳用切断部、(5)、(5')…枠、
(6)…中空部、(7)…敷布団、(8)…上腕部、(9)…胴体
部、(10)…足部、(11)…連結材、(12)…調整具、(13)…枕、
(14)…肩部。

実用新案登録出願人 中 川 和 彦

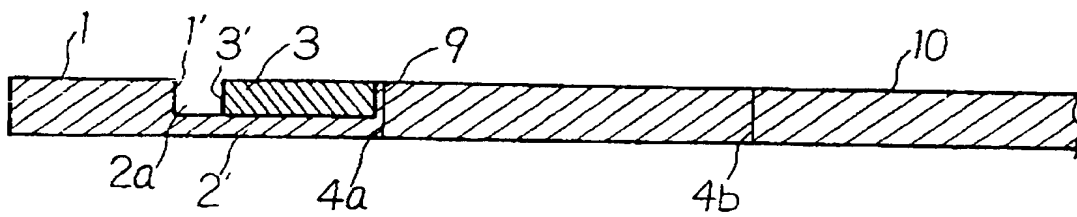
代理人 弁理士 南 一 清

代理人 弁理士 中 川 邦 雄

第1図



第2図

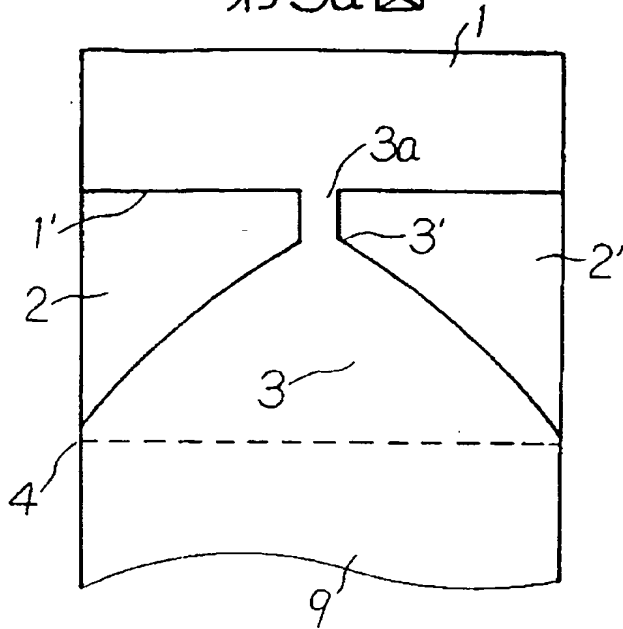


650

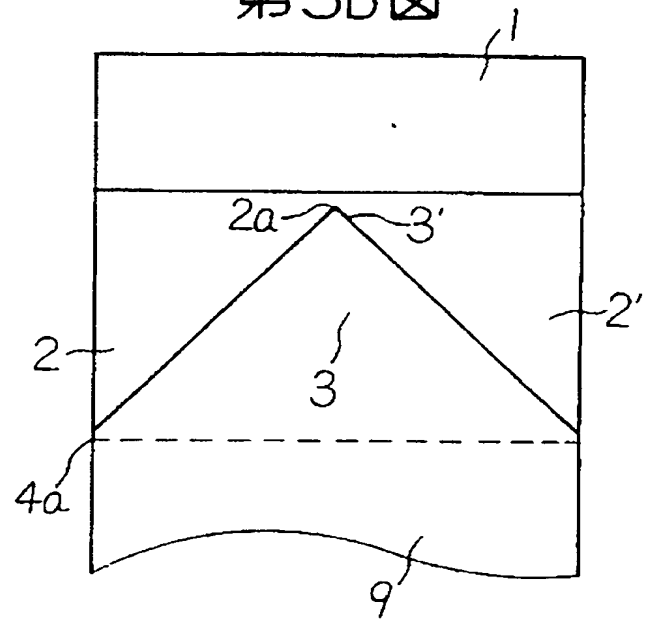
代理人 弁理士 南 一清 外1名



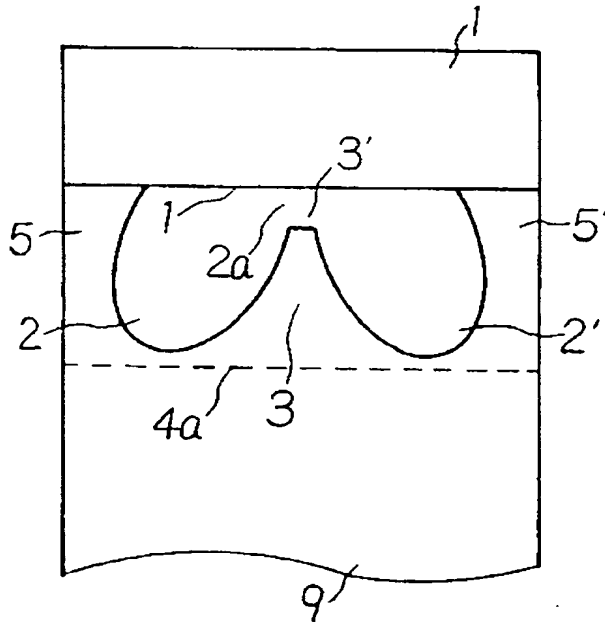
第3a図



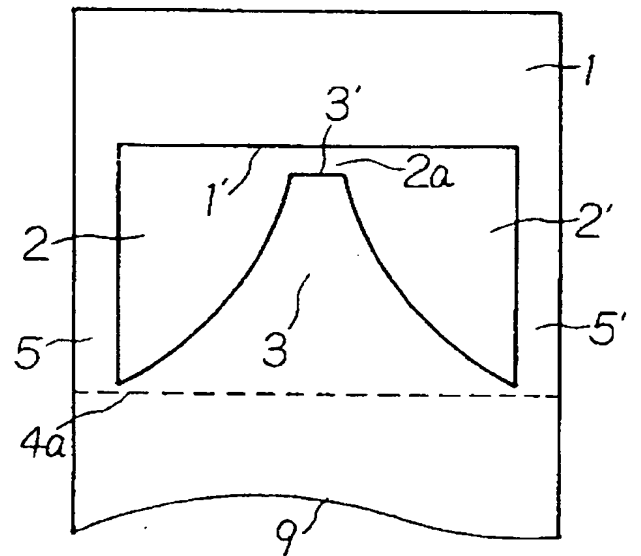
第3b図



第3c図



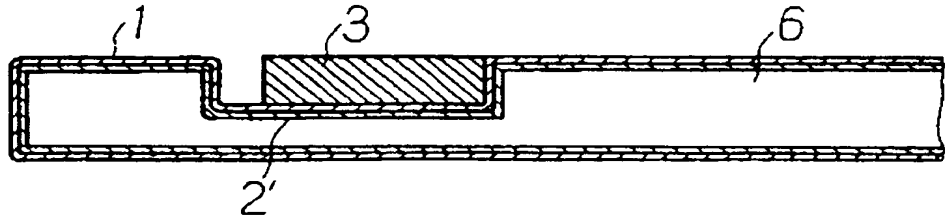
第3d図



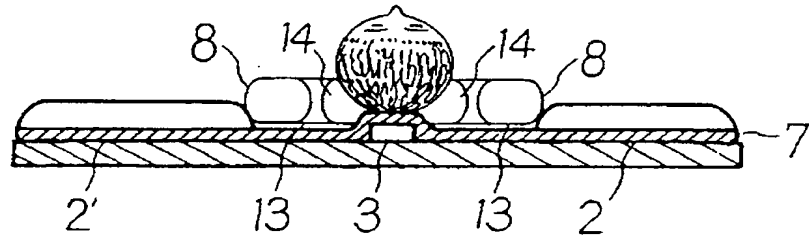
代理人 弁理士 南 一清 外1名



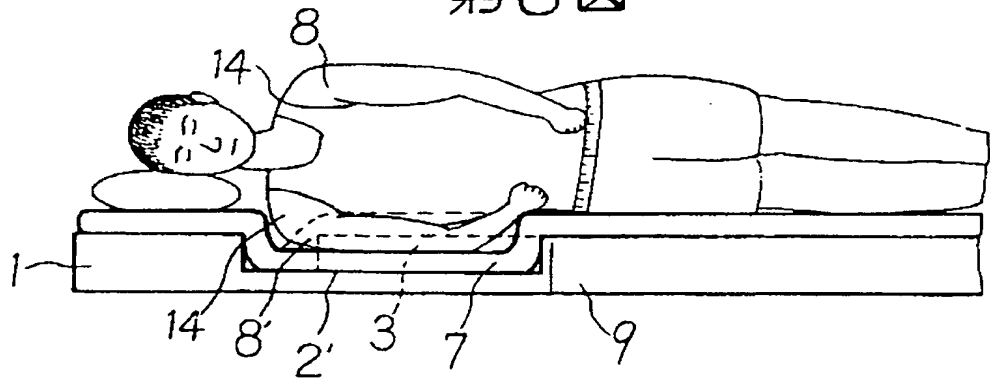
第4図



第5図



第6図

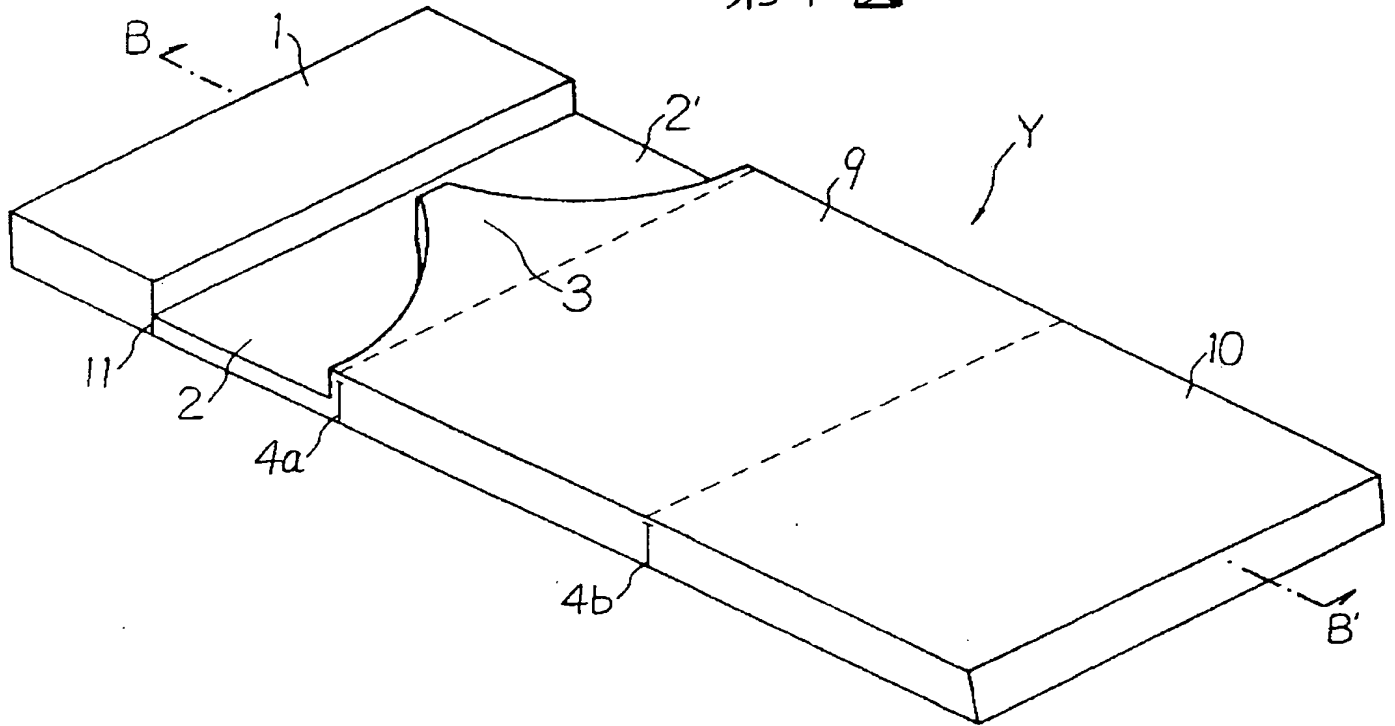


652

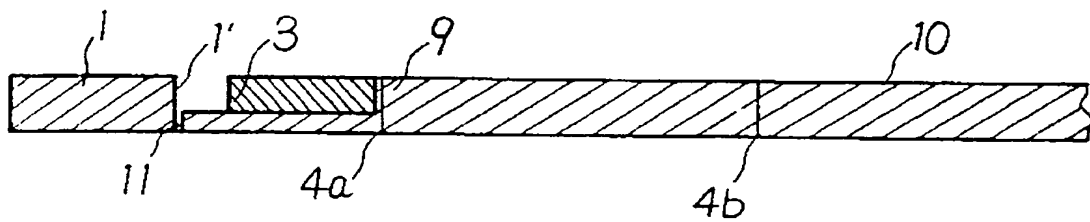
代理人 弁理士 南 一清 外1名



第7図



第8図

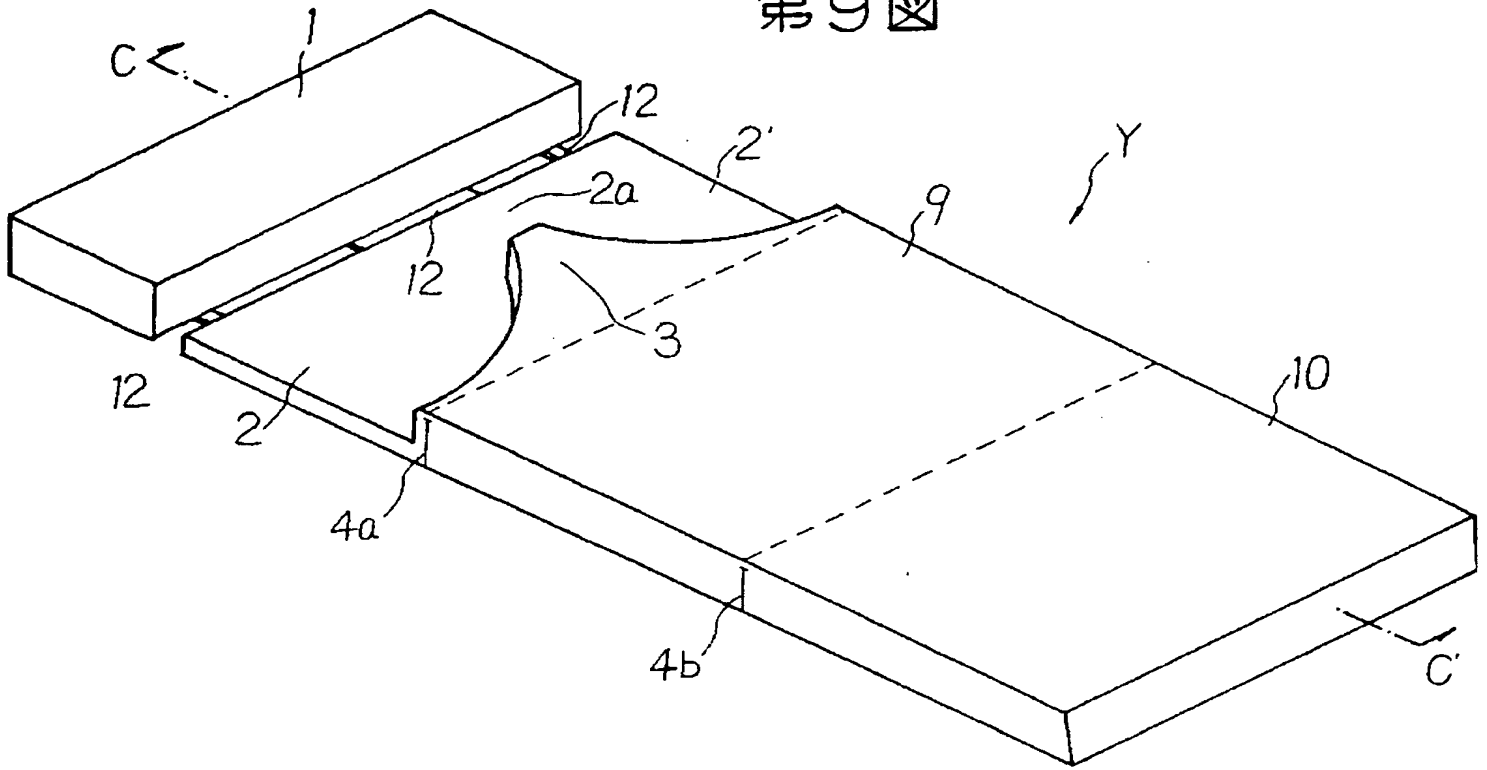


653

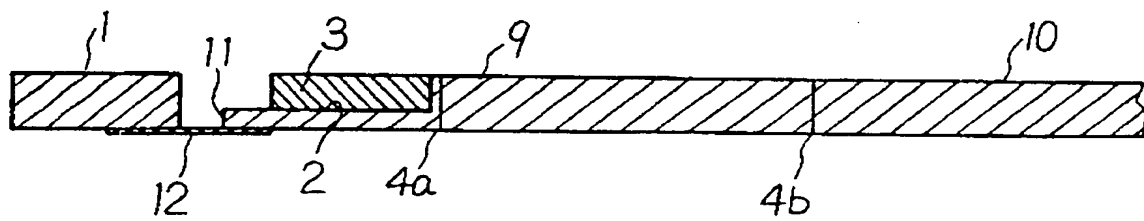
代理人 弁理士 南 一清 外1名



第9図



第10図

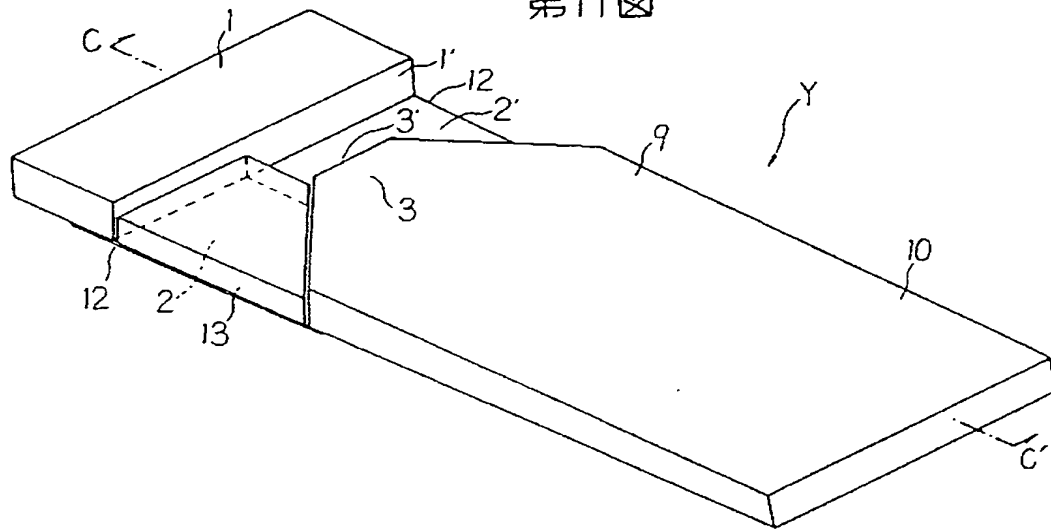


654

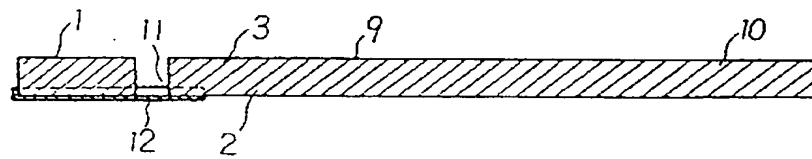
代理人 弁理士 南 一清 外1名



第11図



第12回

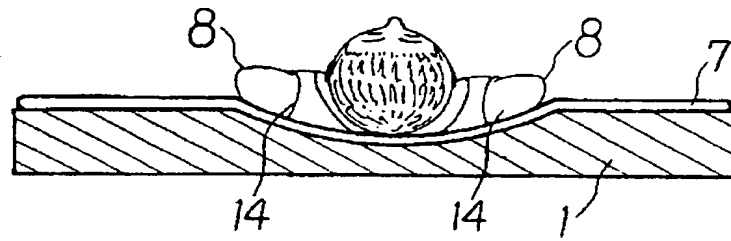


655

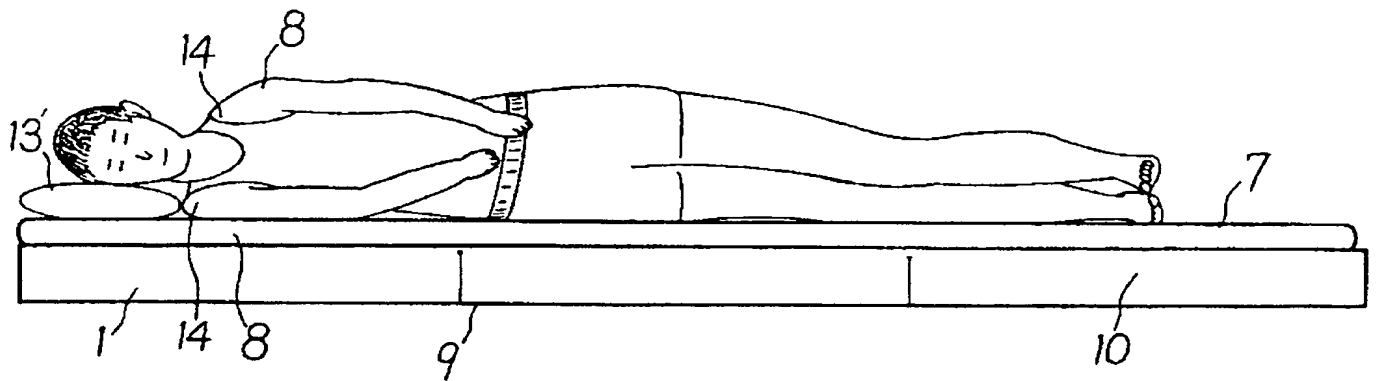
代理人 井理士 南 一清 外1名



第13図



第14図



656

代理人 井理士 南 一清 外1名



手 続 補 正 書

昭和 63 年 1 月 27 日

特 許 庁 長 官 小 川 邦 夫 殿

1. 事 件 の 表 示

昭和 62 年 実用新案登録 願 第 156728 号

2. 考 案 の 名 称 マ ッ ト レ ス

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

フリガナ 千葉県松戸市上矢切 275 番地
住 所

フリガナ 中 川 和 彦
氏 名 (名称)

4. 代 理 人 〒 101

住 所 東京都千代田区内神田 1 丁目 6 番 3 号

氏 名 (5924) 弁理士 南 一 清 外 1 名

5. 補正命令の日付 自発補正

6. 補正により増加する発明の数

7. 補 正 の 対 象

明細書

8. 補 正 の 内 容 別紙の通り

実用新案登録 0-3

方式
審査



657

明細書を以下の如く補正する。

1. 明細書第4頁第10行目に

「の実施例を示すものであつて、(2)は左溝部、
(2')は」とあるのを

「の実施例を示すものであつて、その材質は
従来用いられたもので表面が平坦のものある
いは凹凸のあるものでもよい。

(2)は左溝部、(2')は」

と補正する。

2. 明細書第9頁第16行目に

「になるため上腕部(8)、(8)肩部(14)、(14)を敷布
団に接」

とあるのを

「になるため枕部から横胴体部を支える首す
じ部に負担が多くかかる人もおり上腕部(8)、
(8)肩部(14)、(14)を敷布団に接」

と補正する。

3. 明細書第9頁第18行目に

「ともできる。調整具を使用することにより
使用す」



とあるのを

「ともでき、特に最も重い脇の下からの横胴体部が突出部に直接当ることによつて、胴体の体重が突出部において吸収されるため、肩部上腕部が溝部の底に触れても押圧の負担が軽減され、頭部（枕部）を支える首すじ部も肩部に押上げられて変型する度合が少なくなる。溝部の深さは調整具を使用することにより使用す」

と補正する。

4. 明細書第10頁第12行目に

「しても頭部、肩部及び上脇部の重みでマツトレス」

とあるのを

「しても肩部及び上腕部が胴体部の重みでマツトレス」

と補正する。

5. 明細書第10頁第14行目に

「彎曲することがなくなる為に熟睡することができ、」

とあるのを

「彎曲することが減少する為に熟睡することができ、」

と補正する。

6. 明細書第10頁19行目に

「がなくなり、就寝中に目醒めることがなく熟睡で」

とあるのを

「が減少し、就寝中に目醒めることがなく熟睡で」

と補正する。

手続補正書

昭和 63 年 8 月 5 日

特許庁長官 吉田文毅 殿

1. 事件の表示

昭和 62 年 実用新案登録願 第 156728 号

2. 考案の名称

マ ッ ト レ ス

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所 千葉県松戸市上矢切 275 番地

氏 名 中 川 和 彦

4. 代理人

住 所 東京都千代田区内神田 1 丁目 6 番 3 号

氏 名 (5924) 弁理士 南 一 清



5. 補正命令の日付

(自 発 補 正)

6. 補正の対象

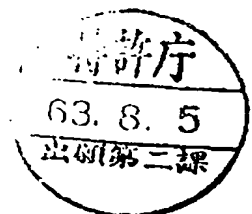
- a) 明細書全文
- b) 添付図面全図

7. 補正の内容

別紙の通り

661

方 式
審 査





補 正 明 細 書

1. 考案の名称 マットレス
2. 実用新案登録請求の範囲

枕下部、胴体部、足部からなるマットレスにおいて枕下部と胴体部間に溝部を形成すると共に、胴体部の上方中央附近に溝部内に突出する突出部を設けたことを特徴とするマットレス。

3. 考案の詳細な説明

「考案の目的」

〔産業上の利用分野〕

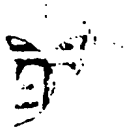
本考案は、敷布団又はマットレスごとき敷寝具の改良に関するものである。

〔従来の技術〕

従来のマットレスを使用して、就寝中に第14図に示すように身体が横姿勢になった時には、まず、上腕部(8)、(8)上部が敷寝具(例えば、敷布団)に接触し、身体の胴体部の重みにより肩部04、04が直接圧迫を受け変型状態になるために肩部04、04及び上腕部(8)、(8)がマットレスの弾発力により上方に押され、横姿勢で長時間就

(1)

662



寝していると肩部(4)、(4)及び上腕部(8)、(8)に痛みを感じ目が醒めたり寝返りをうったりして熟睡できず疲労が完全に除去できない欠点があった。

又第13図に示すように、上向で就寝している場合にも頭部、肩部及び上腕部等が体の重みでマットレスの中に沈みこむと共に両肩部(4)、(4)及び両上腕部(8)、(8)がマットレスの弾発力により上方胸部側に常時押されるので背が弓状に彎曲し、朝、目が醒めても肩部(4)、(4)のこりがとれず不快感が残る等の欠点があった。また、人間は人生の三分の一と言われる睡眠時間中の就寝時の姿勢によって従来のマットレスを使用した場合には、肩を痛め、肩に関連する首筋部にも悪影響を与えていた。

このためにマットレスを軟らかくしたり堅くしたり、あるいは枕を高くしたり低くしたり、更に敷布団を2枚にしたり、合成ウレタンマットレス、スプリングマットレス、ウオーターマットレスやエアーマットレス等クッション性の

A

すぐれたものを使用する手段がとられていたが、出張っている上腕部(8)，(8)肩部(14)，(14)が胴体部の下敷きになり体重がかかるという人体構造の欠陥を是正できず、疲労を完全に除去することや肩こりを解消することは不可能であった。

〔考案が解決しようとする問題点〕

本考案は、睡眠中に横姿勢になった場合においても、上向姿勢になった場合のいずれの場合でも、身体の肩部と上腕部とが当たるマットレスの一部分に肩部や上腕部が入り込む溝部を形成することにより、^人両肩部(14)，(14)及び両上腕部(8)，(8)が胴体部の重圧やマットレスの弾発力により圧迫感や痛みを感じることがなく、又前記溝部により両肩部(14)，(14)及び両上腕部(8)，(8)の下に空間を形成することにより、背が弓状に彎曲することなく水平状態を保って就寝することを可能とし、従って熟睡でき、肩こりを解消し疲労感が残らないマットレスを提供することを目的とする。

「考案の構成」



(問題点を解決するための手段)

本考案は前述の目的を達成するために枕下部、胴体部、足部からなるマットレスにおいて、枕下部と胴体部間に溝部を設けると共に胴体部の上方中央附近に溝部内に突出する突出部を形成したことを特徴とするマットレスなる構成を有するものである。

「作用及び実施例」

前記構成を図面に示す実施例について説明すれば次の通りである。

図面に示す実施例は、溝部を有するマットレスの実施例を示すものであって、その材質は従来用いられたもので表面が平坦のものあるいは凹凸のあるものでもよい。(2)は左溝部、(2)'は右溝部であり、これらの溝部は第1図に示す如くマットレス本体(Y)の枕下部(1)と胴体部(9)との間に設けると共に胴体部(9)の上方に枕下部(1)の内方起立面(1)'方向に向けて溝部内に突出する突出部(3)を形成する。突出部(3)の形状及び溝部(2)、(2)'は第1図に示した形状に限定され

るものではなく第3a図～第3d図に示した形状に形成してもよい。そして突出部(3)の先端部(3)'と枕部(1)の内方起立面(1)'間に左右溝部(2)、(2)'を連通する溝部(2a)を形成し、突出部の先端部(3)'と枕部の内方起立面(1)'は略平行に形成すると共に突出部(3)の厚さはマットレス本体(Y)の厚さ即ち、枕下部(1)、胴体部(9)、足部(10)の厚みと同じ厚みとし、^{し、異なる厚みとしてもよい}してもよい。図中(4a)(4b)はマットレス本体を折り畳む為の折り畳み用切断部であり、(10)はマットレス本体の足部である。第1図、第2図に示す実施例の図面に於ては、折り畳み用切断部(4a)、(4b)を有するマットレスを示したが、必ずしも折り畳み用マットレスでなくてもよい。第3a図～第3d図は前述の如く本考案の他の実施例を示したものであり、第3a図の実施例は、胴体部(9)の突出部(3)の先端部(3)'と枕下部内方起立面(1)'の略中央部とに連結部(3a)を設け、胴体部(9)の突出部(3)を枕下部(1)に連結すると共に左右溝部(2)、(2)'を形成したものであり、第3b図の実施例は胴体部(9)の



突出部(3)を略三角形状に形成すると共に尖鋭の突出部先端部(3)'と枕下部(1)の内方起立面の間には左右溝部(2)、(2)'を連通する溝部(2a)を設けたものであり、第3c図及び第3d図は左右両溝部(2)、(2)'の外側に枠部(5)、(5)'を設けた実施例であり、第3c図は左右溝部(2)、(2)'を卵形にすると共に突出部(3)の先端部(3)'と枕下部(1)の内方起立面(1)'の間に左右両溝部(2)、(2)'を連通させる溝部(2a)を形成したものであり、第3d図は突出部(3)を富士山形状にすると共に突出部先端部(3)'と枕下部(1)の内方起立面(1)'との間に左右両溝部(2)、(2)'を連通させる溝部(2a)を形成したものである。図中(13)は、本考案におけるマットレスに使用する調整具である。即ち、本マットレスを使用する者の体形に適合させる為に溝部(2)、(2)'の深さを調節する調整具である。この調整具(3)の形状は、溝部の形状に応じて溝部内に収納可能に形成すると共に、使用時には必要に応じて上記調整具(3)を数枚重ね合せて使用してもよく、又左右溝部(2)、(2)'のい

ずれに使用してもよい。

本考案は、マットレスばかりでなく第4図乃至第6図に示す如く水又は空気を中空部(6)に入れて使用するウォーターマット又はエアーマットにも応用することが可能である。この場合にも左右両溝部(2)、(2)'の形状及び突出部(3)の形状は、第3c図～第3d図に示した形状に形成してもよい。第7図及び第8図は、マットレス本体(Y)の枕下部(1)を胴体部(9)における左右溝部(2)、(2)'の先端部(11)から分離したマットレスを示したものであり、このように枕下部(1)を分離することにより就寝の際に自己の身長・体形に適合した位置に枕下部(1)を移動することが可能な構成としたものである。

そして、第9図及び第10図はマットレス本体(Y)の枕下部(1)を第7図及び第8図に示した様に胴体部(9)に形成した左右溝部(2)、(2)'先端部(11)から分離すると共に就寝中に寝返り等の動きにより枕下部(1)が移動してしまうことにより寝心地が悪くなることを防止する為に連結材(12)

で連結した場合を示すものであり、この連結手段は、第10図に示す様に枕下部(1)の裏面とマットレス Y の胴体部(9)に形成した左右溝部(2)、(2)'の裏面とを連結材(2)を介してマット使用者の身長・体形等を考慮して必要な間隔をとり取付固定する。取付は接着剤を使用して取付てもよいし、ベルベット式フアスナーを使用して取付てもよく又、縫着して取付てもよい。

図中の左右溝部(2)、(2)'の深さは、同じ深さに形成してもよいが、本考案のマットレスを使用する人の身長・体重等に適應させる為に左右溝部(2)、(2)'の一方を深く形成し、他方の溝部を浅く形成してもよい。第11図は、マットレス本体(Y)から枕下部(1)を分離し、連結材(2)でマットレス本体(Y)の胴体部(9)の裏面と枕下部(1)の裏面を連結した状態を示したものである。この場合に於ては、突出部(3)の先端部(3)'の幅はマットレスを使用する者の体形に応じて幅を広くしてもよく狭く形成してもよい。

第7図乃至第12図に示す実施例においても、



枕下部(1)と胴体下部(9)の間に形成された左右溝部(2)、(2)'には必要に応じて別体に形成された調整具(3)を嵌め込むことにより溝部(2)、(2)'の深さを調整することが可能である。連結材(2)は、第11図に示したマットレス本体の幅と同幅の板状の連結材(2)を枕下部(1)の裏面と胴体部(9)の裏面に取付ける方法に限定されるものではなく、第12図に示した様に枕下部(1)を収納できる箱形の連結材(2)とし、突出部(3)及び胴体部(9)の一部を上記箱形の連結材(2)に収納固定してもよい。連結材としては、ベルベットフアスナー、木製、金属製及び合成樹脂製の板材布地等を使用してもよい。

第11図に於ては、連結材を使用して連結したマットレスを示しているが、第7図、第8図に示すように、連結材及び調整具を使用せずに使用してもよい。

本考案のマットレス本体(Y)に敷布団(7)に使用して就寝状態を示した図が第5図及び第6図であり、第5図は上向姿勢で就寝している状



態を示したものであるが、左右肩部 04, 04 及び
 左右上腕部 (8), (8) がそれぞれ左右両溝部 (2), (2)'
 に入りこむ為に左右上腕部 (8), (8) 及び左右肩部
 04, 04 の下に空間 (3)' ができるため水平状態と
 なる。横姿勢により就寝中の状態を示した図が
 第 6 図であり、就寝中に横姿勢になっても肩部
 04, 04 及び上腕部 (8), (8) がマットレスの溝部 (2)
又は (2)' におさまる為に横姿勢で就寝しても肩
部 04, 04 及び上腕部 (8), (8) が体重及びマットレ
スの弾発力による痛みを感じることがなくなる。
 この場合、身体を支える箇所が、頭部と脇の下
 の胴体部の 2 箇所になるため枕部から横胴体部
 を支える首すじ部に負担が多くか^かゝる人もおり、
 上腕部 (8), (8) 肩部 04, 04 を敷布団に接触させて、
 4 箇所の接点に体重の分散をさせることもでき、
特に最も重い脇の下から横胴体部が突出部 (3) に
直接当ることによって、胴体の体重が突出部 (3)
において吸収されるため、肩部、上腕部が溝の
底に触れても押圧の負担が軽減され、頭部（枕
部）を支える首すじ部も肩部に押上げられて変



型する度合が少なくなる。溝部の深さは調整具
を使用することにより使用する者の体形に適合
したマットレスとすることが可能となる。

マットレスの突出部(3)の先端部(3)'の幅は使
用する者の体形に応じて幅広にしてもよく、又
左溝部(2)を大きく形成し、右溝部(2)'は左溝部
(2)よりも小さくしてもよい。勿論右溝部(2)'を
左溝部(2)より大きく形成してもよい。

実施例中では、折畳み可能なマットレスを示
しているが、マットレスは折畳用切断部のない
マットレスでもよい。

「考案の効果」

本考案はマットレスの枕部と胴体部間に突出
部を有する左右溝部を形成したので、仰むけで
就寝しても肩部及び上腕部が胴体部の重みでマ
ットレスの中に沈み込むことにより上腕部・肩
部が弓状に彎曲することが減少する為に熟睡す
ることができ、肩こりを解消できるとの効果がある。

また、横姿勢で就寝しても肩部・上腕部がマ

図

ットレスの弾発力及び体重により押圧されることがなくなる為に肩部及び上腕部に痛みを感じることが減少し、就寝中に目醒めることがなく熟睡でき短時間の睡眠で疲労を除去できるとの効果がある。

更に、枕部を左右溝部から分離したのでマットレスを使用する者の体形に適合させて使用できるとの効果もある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の1実施例の斜視図、第2図は第1図のA-A'線縦断面図、第3a図、第3b図、第3c図、第3d図は本考案の他の実施例の一部平面図、第4図はウオーターマット及びエアーマットの縦方向の一部縦断面図、第5図は本考案のマットレスに仰むけで就寝中の状態を示した巾方向のX-X'線縦断面図、第6図は横姿勢で就寝中の状態を示した正面図、第7図は、マットレス本体の枕下部が分離できるマットレスの斜視図、第8図は第7図のB-B'線縦断面図、第9図はマットレス本体の枕下部を連結

9

材で溝部裏面部において連結した状態を示した斜視図、第10図は第9図のC-C'線縦断面図、第11図は枕下部(1)と胴体部(9)をマットレスと同幅の連結材で連結し、溝部に調整具を使用した状態を示した斜視図、第12図は連結材を箱形に形成し、枕部と胴体部を連結した状態を示した縦方向のC-C'線一部縦断面図、第13図及び第14図は従来のマットレスを使用し、就寝中の身体の状態を示した図である。

(1) … 枕下部、(2) … 左溝部、(2)' … 右溝部、(3) … 突出部、(4a), (4b) … 折畳用切断部、(5), (5)' … 枠、(6) … 中空部、(7) … 敷布団、(8) … 上腕部、(9) … 胴体部、00 … 足部、02 … 連結材、03 … 調整具、03' … 枕、04 … 肩部。

実用新案登録出願人

代理人 弁理士

代理人 弁理士

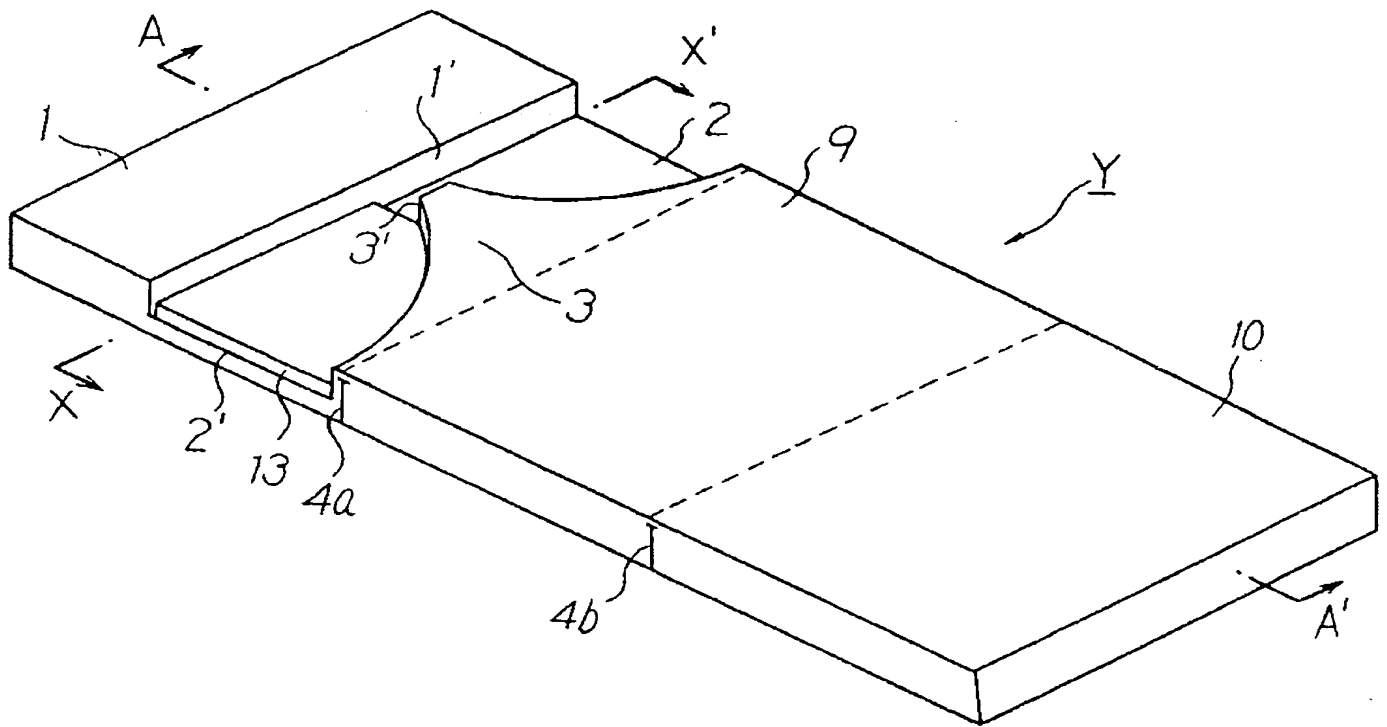
中 川 和 彦

南 一 清

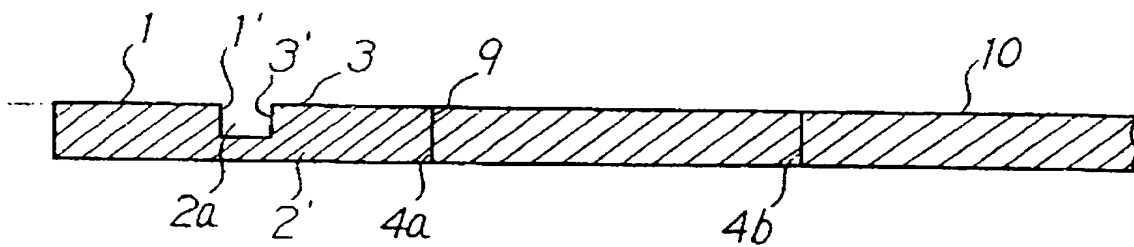
中 川 邦 雄



第 1 図



第 2 図



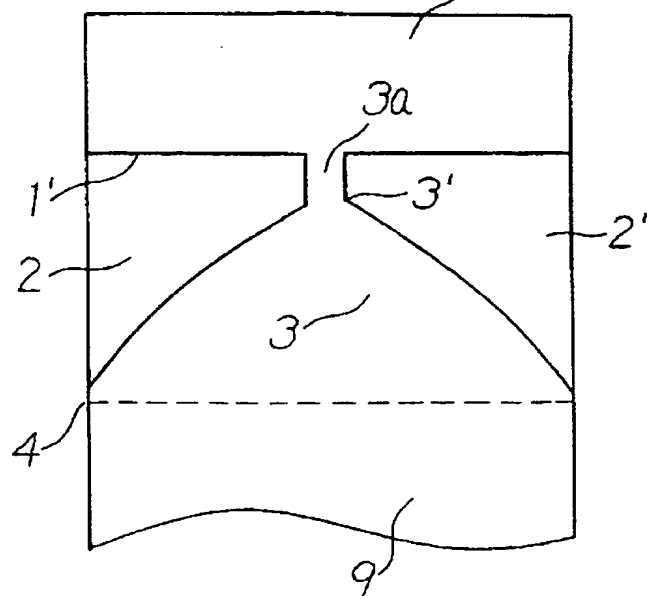
675

代理人 弁理士 南 一清 外1名

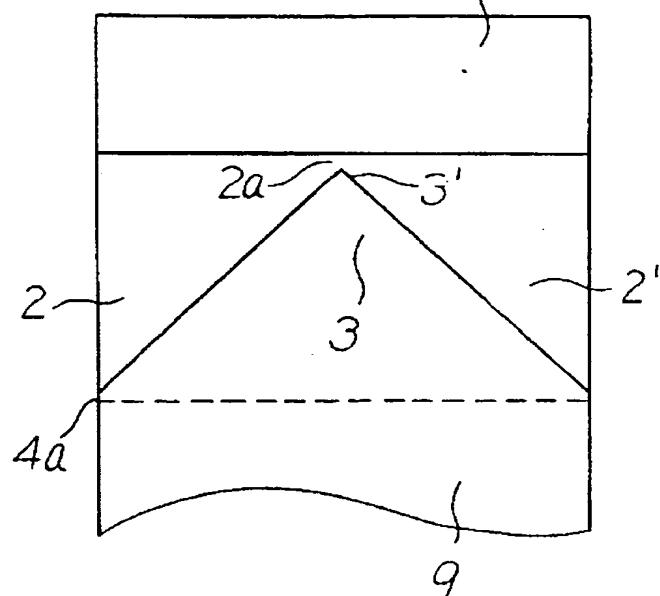


33

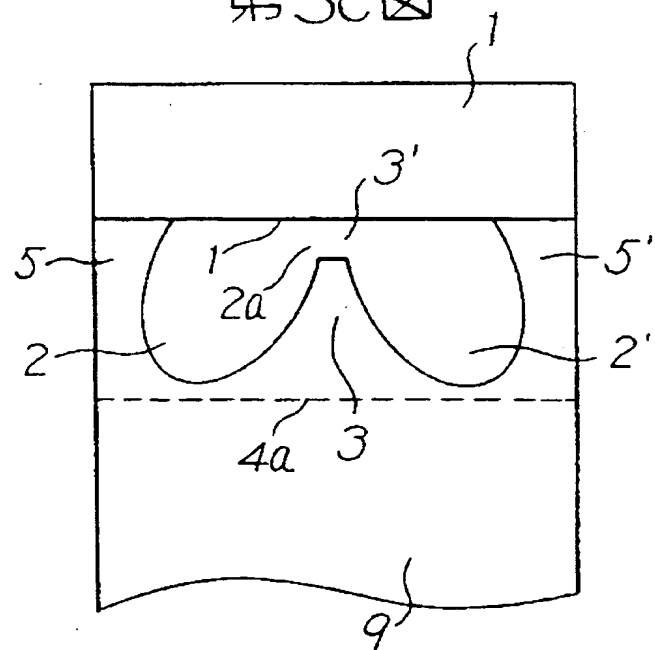
第3a図



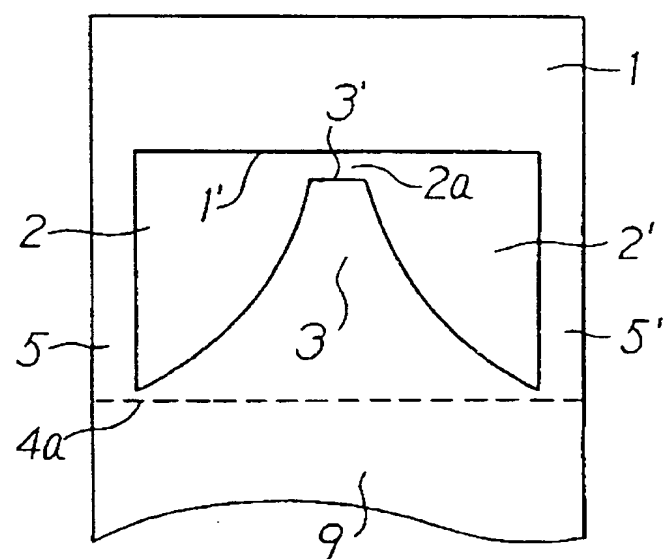
第3b図



第3c図



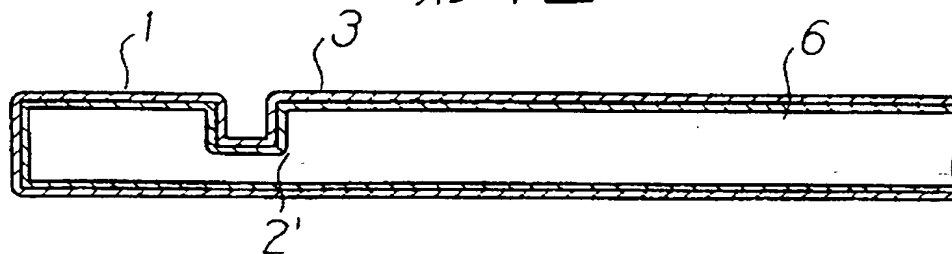
第3d図



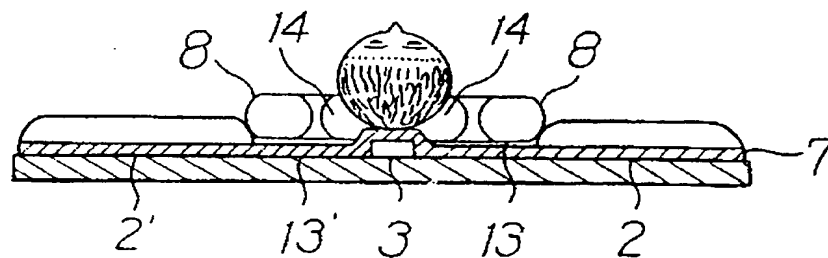
代理人 弁理士 南 一清 外1名



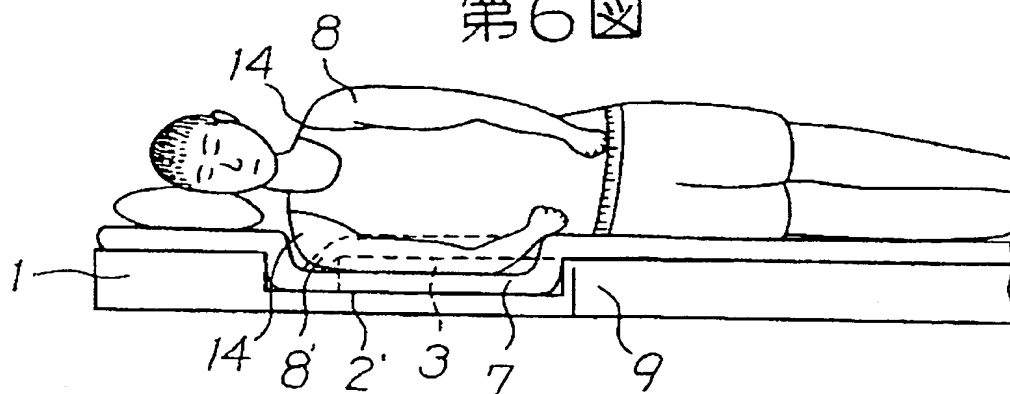
第4図



第5図



第6図

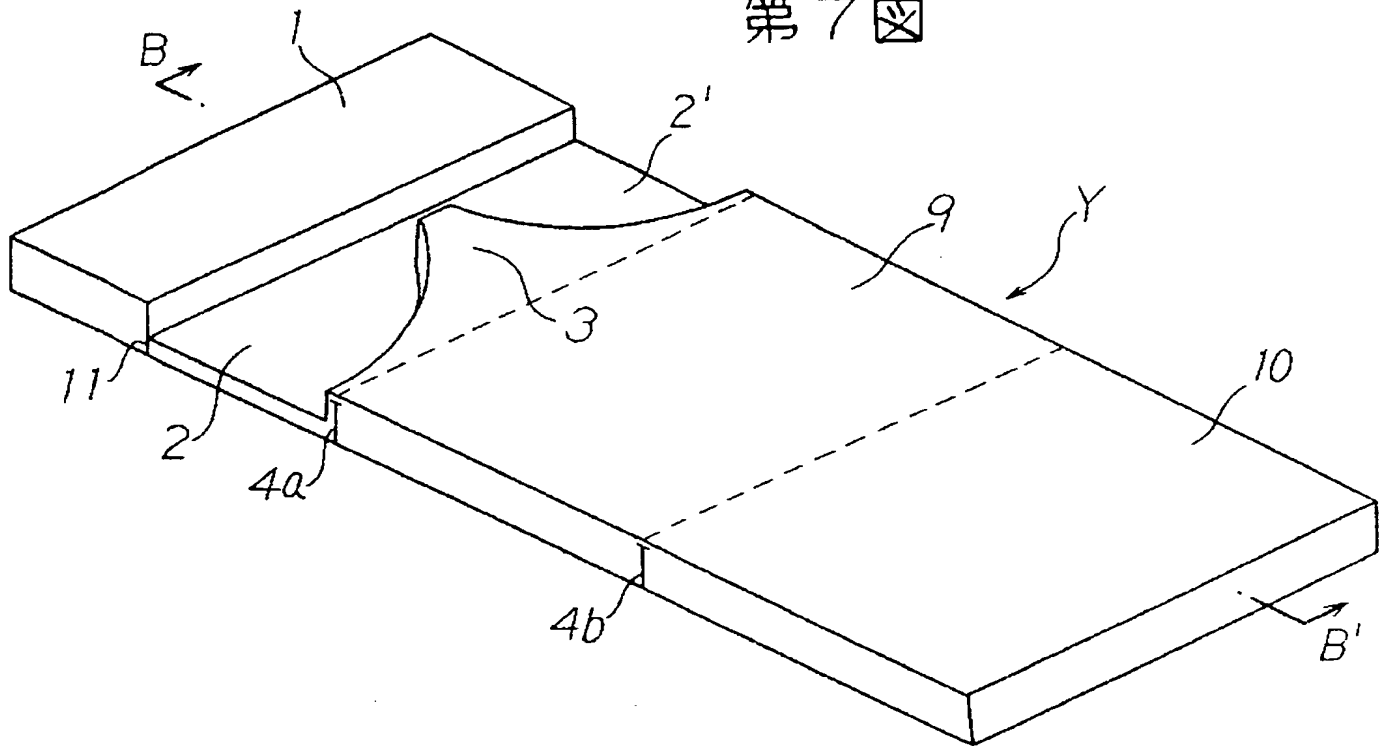


677

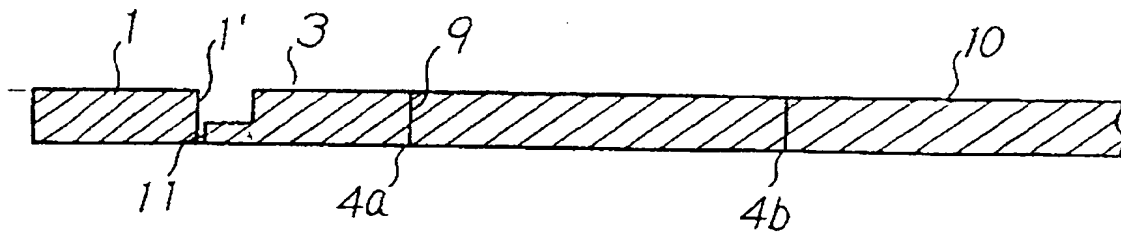
代理人 弁理士 南 一清 外1名



第7図



第8図

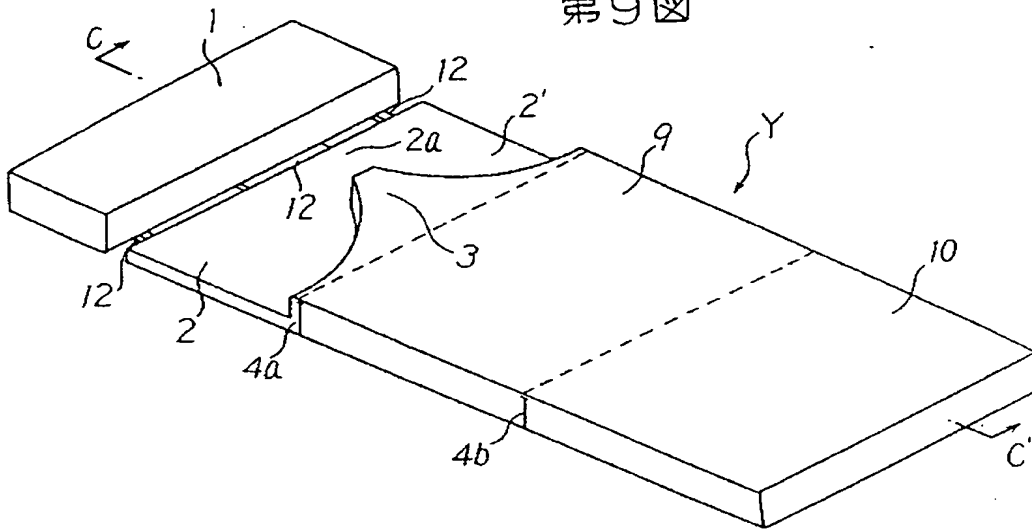


678

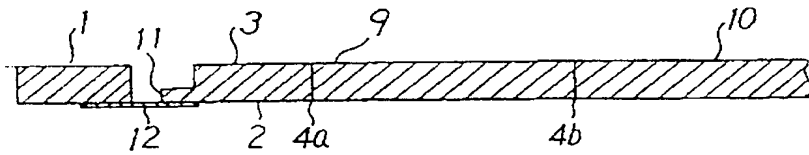
代理人 弁理士 南 一清 外1名



第9図



第10図

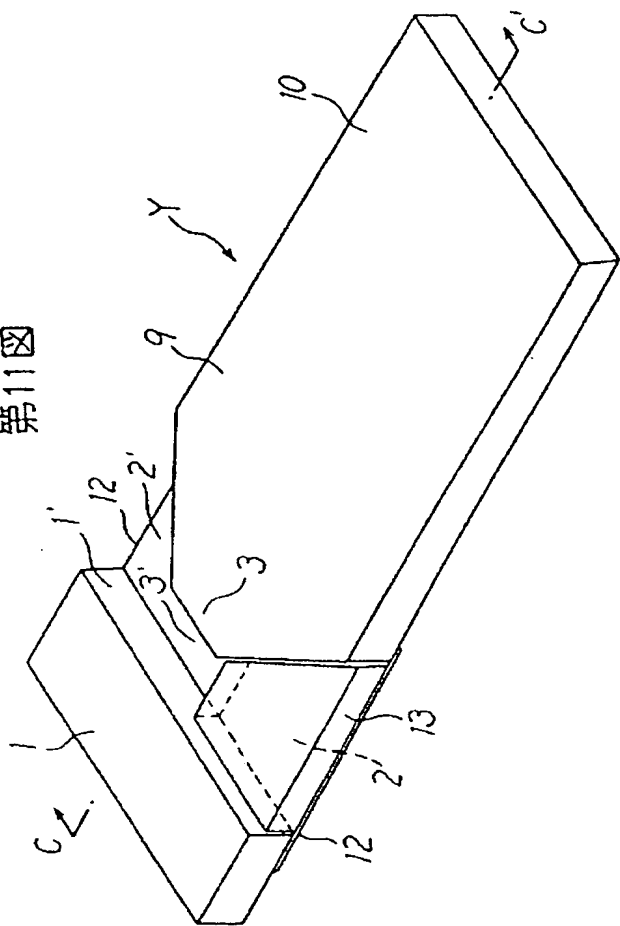


679

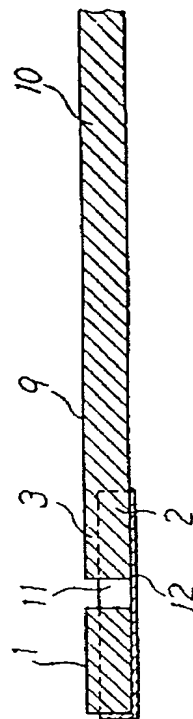
代理人 井理士 南 一清 外1名



第11図



第12図

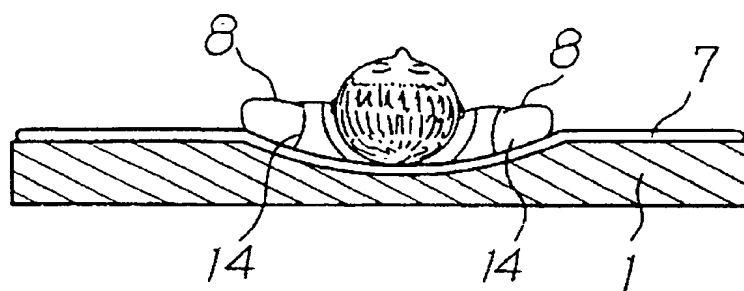


680

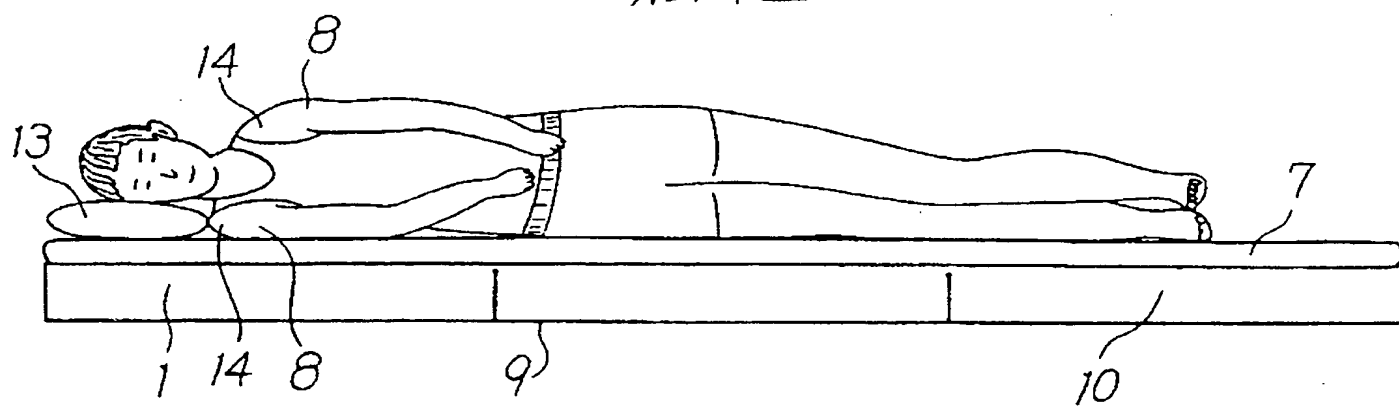
代理人 井理士 南 一清 外1名



第13図



第14図



681

代理人 弁理士 南 一清 外1名

